

「神のかたち」 で生きる 霊性入門

連載

7

愛を鍛える

「神のかたち」を自分自身の生活の中に形作る、というテーマでお届けしています。

クラスにて

最初の夫婦カウンセリングでは必ず次のように伝えます。

「今の場で、相手に変わってもらいたい、という期待を捨てること」

夫婦カウンセリングのクラスを担当する教授から教えてもらったことです。変わるのには、相手ではなく、あなた自身であるというスタートラインに立つてもらうためです。その後、私自身が日本人に関わるさまざまな問題に携わりながら、先のことばの大切さをつくづく実感させられています。

子どもの問題行動に悩む親、ハラスメントや依存症に悩む配偶者、境界線を踏み越

難しいのです。

神の愛の実践

この理論に対抗する考え方をお伝えします。神の愛は、神の聖さ（1ペテロ1:15、16）と義（1ヨハネ3:7）も同時に表す必要があるということなのです。

神は愛を正しく実践する方法を知っています。神は被造物である人を無条件に愛しましたが、神の聖と義を放棄することはありませんでした。

愛のしるしとして、キリストが送られ、愛を全うするために、精神的・霊的な苦痛と物理的な犠牲が払われました（1ペテロ2:24）。キリストは世の不正と罪にチャレンジすることにより、愛を示されました。聖さと義の無い愛は、神を表すものではないのです。

聖さとは罪深い動機や行動を共にしないことです。義とは、良いことと悪いことを明らかにする決断や行動です。あわれみは、成長と成熟を促す忍耐です。愛の実践において、神の全体像である、愛・聖さ・義を示す方向に向けた決断が真の「愛」の実践です。

それに照らして考えたとき、犯罪を繰り返す家族を黙認し続けることは愛でしょうか？ 浪費癖のある配偶者の後始末を続けることは？

愛とはただ相手が快適に過ごせるように

えてくる親族をもつ人、個人の身体・精神・経済的な限界を認めない団体や上司の下で働く社会人。これらの問題は私たちが神話のような「愛」を自他共に信じているため、生じるものです。

神話のような「愛」

聖書によると「神は愛」です（1ヨハネ4:16）。性愛、友愛、家族愛、無償の愛：対象によつてさまざまな名前と呼ばれることがあります。すべての愛の源は神であり、神の愛の一部分が反映されたものです。

従つて、神を学ぶことにより、私たちは「愛」が何であるかを学びます。「愛」は情熱と犠牲を伴います（ローマ5:8、1ヨハネ3:16）。ではそれとは違う神話のような「愛」とはなんでしょう？ それは、次のような理想像

譲歩を続けることではありません。関係性の中に見られる罪深さや不健全さを正そうとする姿勢も愛です。相手が神の喜ばれる在り方へと自立するのを助けることも愛です。

愛の痛み

「変わるべきなのは、相手ではなく、自分である」という話に戻ってみましょう。厳しい戦いではあるのですが、あなたの愛、寛容さや良心、忍耐を浪費するような相手に対しては、神話のような愛ではなく、神の愛を実践する必要があります。

より高次な神の愛は、あなたが「良い人である」という名声を失わせ、「冷たい、あの人はクリスチャンではない」という不名誉を受ける場合があります。キリストが家族のつながりを軽視していると捉えられたり（マルコ3:21）、神を侮辱していると（マタイ26:65、ヨハネ15:18）言われたようになります。

あなたが非難される場合、どのような人があなたを非難しているか考えてみてください。その人たちはあなたを本当の意味で大切にしてくれる良い人たちですか？ あなたをコントロールしようとしていませんか。神があなたの決断についてなんと言っているか考えてみてください。そして、良い信仰をもっている人たちに、健全な判断とは何か相談してみてください。

池田モース優美

いけだ・モース・ゆみ（二〇一九年、米ハイオラ大学タルボット神学校
パストラルケア&カウンセリング修士課程修了。セカンドレベルミニ
ストリー、ソウルケア部門ディレクター。クリスチャンの霊性、精神的支
援のほか、霊的虐待、カルト化教会被害者の回復支援を行っている。

です。

・親は無条件に子どもを愛する。子どもはどんな犠牲を払っても親のために尽くす。

・夫婦間ではどのような背信行為も、愛の力で乗り越える。

・家族・親族は困ったときには助け合うものだ。

・組織や団体のことを大切に思うならば、組織に不都合なことは言うべきではない。組織に不利益をもたらす人間は忠誠心に欠ける。

神話は美しく聞こえるけれども、現実には機能しません。多くの人が良いクリスチャンであろうとするため、この考え方で苦しみます。異議を唱えると罪悪感が生まれ、反論が

自分自身への挑戦

実は、いちばんの強敵は、自分の内側の声です。愛がない、クリスチャンらしくない、と言われても、本当の愛とは何かを実践する荒野に踏み出すことができるか。罪悪感に悩み、失敗しながらも、悪戦苦闘の先にある希望を信じるか…。

夫婦喧嘩が増え、子どもを失望させることになるかもしれません。安定した生活基盤を失ったり、つきあっている相手と別れたり、昇進の道が絶たれたりするかもしれない。

愛の実践とは、自分自身との戦いです。抵抗に耐える愛の筋肉をつけることです。神は愛の結果として、人となったひとり子を失いました。しかし、神の犠牲は永遠のいのちにつながりました。私たちも大切なものを失うことになるかもしれません。私たちは失いますが、鍛えられた愛はより神に似たものとなります。

あなたの愛がどのようなものであるのか、よく考え、信頼できる人から知恵をもらいましょう。愛を鍛える過程においては、理解されないこともあります。しかし、あなたの愛に対する取り組みは、神に知られています。神の導きと平安がある方向へ進んでみてくださいね。